

学校教育目標	「心はひとつ 八景小！～自分らしさを発揮し、認め合い、思い合い、豊かに生きることができるようにします～」					
	【知】考え、つくりだす子 【徳】心豊かな子 【体】心身ともに健やかな子 【公】まちを愛する子 【開】自らかかわりあう子					
学校概要	創立 70 周年	学校長 矢野 和佳乃	副校長 小澤 孝之	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 2 通級併設
	児童生徒数:	人	主な関係校: 金沢中学校・西柴中学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	金沢中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<協働して新しいものやことをつくりだす力> <自分らしく主体的に行動する力> <自他を認め、豊かに生きようとする力>	金沢中 八景小 釜利谷東小 文庫小 金沢小 能見台南小	○「コミュニケーション能力」と「課題解決のために協力する力」の育成 ○他人を思いやり、地域社会に貢献できる児童生徒の育成 ・小学校職員と中学校職員による授業参観と意見交流を行う(6月) ・ブロックの教務主任が集まって意見交換や情報共有を行う(年2回程度) ・児童生徒交流日を実施して中学校生活への見通しをもつ(10月) ・行事を通して小中の交流機会をもち、コミュニケーションを深める ・「こども会議」等の機会を生かして、協力して課題解決する力を育てる

中期取組目標	○主体的に考え、行動することを通して、自己肯定感を高め、思いやりの心を育てます。 ・学習したことをもとに興味・関心を引き出し、さらに新しいものやことをつくりだそうとする姿勢や意欲を育てます。 ・たてわりの「なかよし活動」や学年学級の活動、地域との協働を通して、自己決定場面や課題解決場面を増やし、成功体験を積ませることにより自尊感情や協働の姿勢を育てます。 ・子ども人権会議「スマイル会」の活動やたてわり「なかよし活動」を通して、人と人との豊かなかわりあいや自他を認め合い、思い合う心の育成に努めます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①重点研究のテーマ「自己肯定感を育み学習意欲を高める授業づくり」の具現化に向けて、「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指していく。②「プログラミング的思考」を中心に研究を進め、いきいきと伝え合う子の育成や主体的に学び合う姿を目指す。
豊かな心	①児童人権委員会「スマイル会」を通して、子どもたちが日頃感じている思いを取り上げ、子どもの目線からの人権意識の向上を図る。②人権週間の取組やたてわり活動などを通して、課題解決したり成功体験を積んだりすることにより自尊感情を育て、豊かな心と自己肯定感を育む。
健やかな体	①体育科において一人ひとりの実態に応じたためあてをもち、楽しく運動に取り組めるような授業を展開する。②運動に親しみ、健康面・体力面が向上するように「外遊びデイ」や「長縄集会」など、全校での取組を計画的に実施する。また、心も体も健康に過ごせるよう、意識を高める。
特別支援教育	①全校の子ども一人ひとりを大切にすることを前提とし、児童理解の情報交換を常日頃から行う。②支援が必要な子ども一人ひとりのニーズに合った個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、継続的に支援する。③情緒通級では協働型巡回指導を実践し、在籍校との連携を深める。
児童生徒指導	①たてわり活動で給食交流や全校遠足などを通して、協力し合い認め合う心情を育て、人間関係をより深めていく。②学校生活の中で最低限必要なマナーやルールである「八景小スタンダード」を、子どもの実態に応じて見直し、教職員間で共通理解を図る。
教育課程・学習指導	①新学習指導要領に基づいた教育課程の実践並びに評価計画の作成を進める。②新型コロナウイルス対応に係る一斉休業期間の未履修部分や時間数に留意し、学習が保障されるよう全教職員で確認しながら柔軟に学習指導を進める。
地域連携	①年間の学校、学年行事を地域、保護者に学校便りやホームページなどを活用して幅広く周知する②登下校を見守って下さっている見守り隊の方々や学区の商店街との関わりを深め、子どもたちが地域と共に学べる環境をつくる。③地域とともに防災体制の見直し・強化を図る。
	b8
いじめへの対応	①全職員で子どもたちへの声かけや指導、支援を継続して行う。②YPアセスメントシート・生活アンケートからいじめの早期発見、早期解決に努める。③「いじめ防止対策校内委員会」を月1回実施し、共通理解を図るとともに、関係機関との連携を図り、迅速に対応できるよう組織的に取り組む。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①学年研究会を充実させ、教材研究や児童理解を深めるように努め、職員間で共通理解を密に図る。②経験豊かな教師が経験の浅い教師に指導法を伝える研修の機会を設けるとともにメンター同士の活動を確保する。③経験の浅い教職員も見通しをもって業務を行えるように職員会議を毎月開催していく。